

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

登米農業改良普及センター

実施月日：令和 7年 9月 3日

実施場所：登米合同庁舎、中田町現地ほ場

1 検討内容

No	検 討 項 目
1	令和7年度普及指導計画について プロジェクト課題
2	No.1「加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築について」
3	No.2「農地整備を契機とした地域営農構想の実現について」
4	No.3「環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立について」

2 検討委員の構成

(単位：人)

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	2	生 活 者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市 町 村	1	マスコミ	1
農業関係団体	1	民間企業	1
(農業関係団体と民間企業が当日欠席)			

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和7年度 普及指導計 画について	4.0	【普及指導計画全般】 - これまでとあまり変り映えはないように思うが職員の人数も少ない中ではあるが充分な支援をお願いします。 - 上位計画の目標達成に向けた計画であり、農業、農村の課題にしっかりと向き合っている。 【プロジェクト課題】 - プロジェクト課題も今日の課題としてタイムリーであり、成果を普及する価値ありと評価できる。 - 法人化や担い手育成、先端技術推進等、将来を見通した指導方針が評価できる。	- 現状の体制で最大の効果が得られるよう、関係機関と連携しながら活動を進めていくとともに、今後も地域の課題に焦点を当てた普及指導活動、計画の策定に努めてまいります。 - 次年度以降も引き続き、農業者や関係機関の支援ニーズを的確に把握しながら、課題の洗い出し、課題解決に向けた活動項目、得られる効果などを十分に検討し、課題を設定してまいります。

プロジェクト課題No.1 加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築について	4.0	・栽培技術への所見等に対しての報告も含め収益性や採算性なども知りたいと思う。 ・以前の課題は、収量が目標に届かないことだったが、今年は収量が伸びたが小玉傾向となり、販売数量に課題を残した。小玉馬鈴薯にも新たな価値を求め販売に繋げられるようメーカー等と商談するなど結果として、着実に利益を確保できる経営を総合的に検討されたい。(出荷規格の見直しなど) ・排水性の良い圃場、話にあがった東和町などを検討すべきではと思いました。 ・登米市で力を入れるべき作物と考える。栽培技術の改善等向上支援の成果が表れている。 ・今後、面積拡大や新規生産者の増加に向けた取組が必要になってくるとは思うが、まずは現生産者がどれだけ規模拡大ができるのか又、令和7年産は小玉が見受けられたことから品質維持が求められてくると思われる。 ・栽培マニュアルによる生産技術の統一化、増収に期待いたします。	・栽培技術の普及にあたっては、単に栽培上の効果を示すだけでなく、導入コストや労働負担、収量・品質向上による販売額の変化を含めた収益性の評価を併せて提示することができるよう、関係機関と連携しながらデータの収集に努めてまいります。 ・所得確保に向けては、目標単収が達成できるよう技術支援を継続してまいります。併せて、販路や販売単価の確保に向けて、小玉馬鈴薯の利用拡大について、メーカー等の商談ほか生食用ばれいしょの取組事例などの情報収集に努めてまいります。 ・県が示す目標単収 3t/10a の確保に向けて、収量性や規格品の割合を一層高めるために、登米地域の気候や土質、ほ場条件等を踏まえた栽培技術の確立を図るとともに、引き続き関係機関と連携しながら生産技術の支援に努めてまいります。 ・現在、地域特性を踏まえた栽培マニュアルの作成を進めております。今後、現地実証や関係機関・農家からの意見を取り入れ、より実効性のある内容へと改訂を重ねてまいります。
プロジェクト課題No.2 農地整備を契機とした地域営農構想の実現について	4.1	・管内全域に早急に進めていかなければならない課題だと思う。 ・圃場整備の実施に向け、将来の農業を地域みんなで話し合い地域営農構想を描いている。今後は地域農業の具体化、法人設立など新たな農業、農村を目指していることはすばらしい。園芸作物の栽培技術の確立など課題もあるがこのことは、多くの地域での取組が考えられるので、他のモデルとなるよう指導されたい。 ・地域計画の中で、10年後の担い手の事を考えると、集落営農法人よりも株式会社にした方が良いと思います。 ・法人化に向けた準備が着々と進んでいることが高評価 ・圃場整備内の担い手への法人設立に向けた支援を実施していることについて、評価できる点であると思われる。是非、法人設立に向け手続きを進めてもらいたい。 ・圃場整備事業への積極的なスマート農業機器導入をお願いしたい。	・地域営農構想の実現に向け、引き続き関係機関と連携を図りながら、担い手の経営計画の作成や法人化を支援してまいります。 ・高収益作物として取り組んでいる加工用ばれいしょについても、他地域のモデルとなれるよう、技術面や経営面での課題を明らかにし着実に解決していくことで、収益性の高い安定生産の実現を支援してまいります。 ・スマート農業の取組に関しては、整備後の大区画ほ場での効率的な営農に有効な技術であることから、担い手に対し研修会等への参加誘導や各種情報提供を行いながら、円滑な技術導入を支援してまいります。

		・地域計画による条件不利地が耕作放棄地となるおそれがあるので、それらの農地整備についての検討も必要に思われる。	・なお、今後、新たに農地整備事業の実施が計画される地域においても、関係機関と連携しながら、地域営農構想の実現に向けた取組を支援してまいります。
プロジェクト課題No.3 環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立について	4.1	・一般農家向けではないが、実施経営体のどの経営体も乾田直播に対するの栽培技術は完全確立していると言っても良いと思う ・AIを活用した適期防除や衛星画像による生育状況の把握により、環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立を図る取り組みは、今までの乾田直播の課題を解決し、米作りの新しい時代を拓く素晴らしいものだ。高品質、大規模経営のモデルとして是非成功に導かれない。 ・担い手不足により、これからも生産法人に面積が集まると思います。その時のためにデータを残して広く行って欲しいです。 ・安定した成果にはもう少し時間がかかると思おうが、成果は確実に表れている点が良い。 ・乾田直播栽培を行っている2経営体で栽培支援システム（ザルビオ）を試験導入しセンシング機能などを有効活用している点においては評価に値する。今後も様々な課題があると思うが、省力化技術の向上のためにも乾田直播の推進を望むものである。 ・環境保全米としての取り組みを図るうえで、直播と移植の違いによる販売戦略を検討する必要がある。	・乾田直播栽培は担い手の減少から今後も増加が見込まれる一方で、環境保全米の栽培面積が減少傾向にあるため、環境保全米の適用となる可能性のある環境負荷低減型水稻乾田直播栽培の技術の確立に努めてまいります。 ・スマート農業技術については、対象も有効性を感じており、今後も規模拡大および省力化の観点からも定着を図りたいと思います。 ・栽培方法による違いを価値として差別化し、魅力として伝え、販路拡大やブランド力向上につなげる戦略を描いていくことは大切なことと思っておりますが、まずは、環境負荷低減型による乾田直播栽培の技術の確立に努めて参りたいと思います。
その他		・全体的に活動展開の方向性は良い方向へ進んでいると思います。 ・登米市が宣言した「オーガニックビレッジ」への積極的な支援を県にお願いしたい	・引き続き、関係機関と十分に連携を図りながら、生産者や地域からの要望・機体に沿えるよう努めてまいります。 ・登米市有機農業推進協議会の一構成員として、他の構成団体とともに登米市の有機農業推進に向けて支援してまいります。